

## 目 次

<b>講演記録 2018年度文化情報学研究科共通シンポジウム（行動データ科学コース）</b>	
文化を人間の認知・行動から考える……………	杉尾武志 1
実験データから心の働きを推測する—価値に駆動された視覚情報処理のメカニズム— ……………	峯 知里 3
交通環境におけるヒトの心理学……………	紀ノ定保礼 9
全体討論……………	13
<b>学術会議報告 フォーラムレポート</b>	
テキストマイニング 2018 ……………	同志社大学 文化情報学会 運営編集委員会 17
<b>国際フォーラム報告 同志社大学文化情報学部・淡江大学外国語文学院国際フォーラム</b>	
「国際化」から「グローバル化」へ、そして「ローカル化」へ —「人際化 (humanization)」を起点として— ……………	山内信幸 20
外語教育與在地文化研究學術論壇 International Forum on “Foreign Languages Education and Studies in Local Culture” ……………	23
文化情報学部 研究発表要旨……………	26
<b>会 告</b>	
博士学位論文要旨……………	31
会則……………	38
執筆要項……………	39
2017年度決算報告 ……………	42
執筆者紹介……………	43

## 資料紹介

同志社大学文化情報学部蔵『百人一首かるた』（歌意絵入り）四種

—影印・翻字と考察（一）—… 福田智子・穂満建等・高瀬真里奈・李 羽 67

## 研究ノート

茶会記の姿 —藪内流伝授式など—…………… 耕三寺華蓮 75

## 研究論文

奥高麗片口茶碗「離駒」—毛利元義との関係に注目して—…………… 宮武慶之 84

### <表紙の写真>

(右上) 会告 博士学位論文要旨 (土田潤)

図は、マーケティングリサーチや心理学、経済学や社会学の様々な調査によって観測される3相3元データのイメージ図である。通常の調査では、対象、変量、条件といった3つの有限集合組によって表現されるデータ（例えばSD法で得られるような調査者、検査項目、対象項目という3つの組が特定されたとき値が定められるようなデータ）となり、行列で表現される多変量データとは異なる特性を持つ。学位論文では、その特性に適応しうる多変量解析法が検討されており、多くの調査・研究の基礎研究として重要な概念となっている。

(左下) 国際フォーラム記念講演とフォーラムの参加者 (講師：山内信幸先生)

同志社大学文化情報学部と淡江大学は、学部間協定の一環として、研究者の交流を推進している。本年は、同志社大学から約30名もの学生・教員(本学会会員・評議委員)が淡江を訪問し、日本と台湾における文化情報研究について活発な討論を行った。2019年度には、改めて淡江から研究者を招聘して同志社大学文化情報学部でシンポジウムが開催される予定である。今後のますますの学術交流が期待される精力的な事業である。(特集記事参照)